

進路だより

札幌市立白石中学校
2025. 6. 10 発行
第 17 号

公立高校の推薦入試について

北海道内の公立高校の推薦入試は、自己推薦入試です。今から考えている人もいますので、概要をお知らせします。

●そもそも推薦入試とは何？

推薦入試とは、簡単に言うと学力試験を受けず、面接等で合否が決まる入試制度の事です。面接の他には、多くの場合、学習点（いわゆる内申点）が合否判定に用いられ、学校によっては適性検査や英語による面接などもあります。日程は来年の2月10日（火）に面接試験を受け、2月中に合否が内定します。合格内定した場合は、3月4日（水）に行われる学力検査を受ける必要はありません。一般入試より約1か月早く高校入学を決めることになります。

●「自己推薦」とはどういうものなのか？

北海道内の公立高校で実施される、自己推薦入試では、各高校が示すスクール・ポリシーの一つとして公表している「入学者受け入れに関する方針」に当てはまると考えている生徒で、出願する動機及び理由が明確である生徒が、受検することができます。

●私立高校などで実施される「学校長推薦」とはどういうものなのか？

以前の公立高校入試では、大通高校など一部を除いて、推薦というと「学校長推薦」のことを指していました。学校長推薦とは、その名の通り、校長先生が、人物面や学習面において、推薦できると太鼓判を押した生徒だけが受検できるものです。したがって、各中学校において審査基準が設けられており、白石中学校にも以下のような基準があります。

- ① 2025年3月に、本校を卒業する見込みの者 ※昨年度のものになります。
- ② 出願する動機および理由が明確である者
- ③ 当該学科に対する適性・興味・関心および学習意欲を有する者
- ④ 受験校への合格の可能性が高く、一定水準以上の学力を有する者
- ⑤ 生活・行動上問題がなく、更に推薦に値する要素がある者
- ⑥ その高等学校に入学してからも、学力面や行動面で十分力を発揮できると判断される者
- ⑦ 中学校3年間の生活や行動がしっかりしていて、進学後も活躍が期待できる者
- ⑧ 中学校での生活（生徒会活動・部活動・ボランティア活動・学年や学級活動等）で優れた活動をし、進学後もあらゆる場面で活躍し、生活や行動がしっかりしており他の模範となる者。特定の技能が特に秀でている者
- ⑨ 推薦委員会が推薦し、中学校長がこれを認めた者

私立高校など、公立高校以外の推薦入試は、今後変更がない限りこの審査基準が適応される「学校長推薦」になることが考えられます。

「自己推薦」の場合は、この基準が求められないことになります。簡単に言うと、自分で自分を推薦できると思えば、誰にでもその資格が与えられることになります。今後、各高校が示す方針に自分が合っていると思えた人は、自己推薦を受けられるということです。

●学校長推薦から自己推薦になりました。

札幌市立高校を含め、道内全ての公立高校の推薦受検は、自己推薦となりました。私立高校については、各学校によって異なります。また、元々全ての公立高校において推薦入試が実施されていたわけではありません。さらに、推薦による入学者数は、それぞれの高校が決定できますので、これまでと増減があるかもしれません。昨年度の自己推薦に関わる資料は廊下にありますので、自己推薦を考えている人は、見ておいてください。※第3学年進路のclassroom『授業』の中にも同じものを載せています。

●推薦入試へ大きな期待をしてはいけない3つの理由

推薦入試を受けるから、受検勉強が楽になるとか、手を抜くことができるということはありません。その理由としては・・・

- ①これまでも、推薦入試に挑んだ生徒の中には、不合格者がいたからです。昨年度の自己推薦でも、35名が挑戦し15名が不合格となっています。今年度、より多くの生徒が推薦を希望した場合、これまで以上に厳しい状況になることも考えられます。また、学習点（いわゆる内申点）が、合否判定の一部として使われます。したがって、推薦入試を考える場合でも、日頃の授業へしっかりと取り組み、テストや提出物などを通してしっかりと結果を残す必要があります。
- ②推薦入試で合格できなかった場合は、一般入試へ再出願することができますが、不合格が分かってから一般入試までは一ヶ月を切っている状況です。挫折からの素早い気持ちの切り替えと、立ち直る精神的な強さがあっても、それまでの受検勉強の積み重ねがなければ厳しい結果が待っていることになります。よって、推薦で受検する場合でも、一般入試で学力検査を受ける前提で、長い時間をかけてしっかりと受検勉強に取り組む必要があります。
- ③推薦入試を受けるためには、面接練習が欠かせません。志望理由や自分の長所・短所、高校に入学してから頑張りたいこと、将来の夢など、多岐にわたる様々な質問に、自分の言葉で、面接官が納得できるように伝える必要があるからです。これまでの推薦受検者も面接準備に相当な時間を費やしてきました。その分の時間は学習時間やその他の時間を削って生み出す必要があります。よって、推薦入試を受けるには、しっかりとその準備ができること、そして自分で時間を上手に管理できる計画性が求められると言えます。

●まずはじっくりと考え、推薦入試を有効に活用しましょう

公立・私立を問わず、推薦入試を受けるかどうかの最終的な判断は11月以降です。まずは、それまでにしっかりと学習に取り組み、一般入試でも太刀打ちできるだけの実力を身に付けましょう。また、推薦入試の可能性が少しでもあるのであれば、面接やその学校についての研究を進めても良いかもしれません。推薦入試を希望するかどうかは、保護者の方と相談した上で、最後は皆さん自身に決めてもらいます。担任からもアドバイスをもらい、じっくり時間をかけて考えましょう。

進路情報

＜小樽明峰高等学校＞ 個別相談会・部活動体験会・他

日時 / 6月21日(土)個別相談会 8月2日(土)部活動体験会

※詳細は配付したチラシをご覧ください。

※第3学年進路のclassroomにもチラシを載せています。(6月6日掲載)

